

学校教育目標 (教育方針)	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身に付けた生徒 将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒 心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業・実習等では、課題解決へ向けて「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 学ぶことや働くことの意義、目的をしっかりと考え、コミュニケーション力の向上を図り、ものづくりに関する知識、技能だけでなく、技術の変化に対応できる力の育成 生徒一人ひとりの個性や長所が伸長でき、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 工業の分野に興味をもち、主体的、継続的な学びの姿勢で、未知の領域に挑戦しようとする意欲と熱意をもっている生徒 幅広い教養と高い専門性を得るため、自ら積極的に学び、考え答えを導きだそうとする行動力をもっている生徒 部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に参加し、よりよい学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 絶え間ない進歩により目まぐるしく変化を続ける社会において、よりよい未来の実現に向かうことができる確かな学力の育成、及び地域のものづくり人材の育成を担う工業高校としての魅力づくり 多様な生徒が学ぶ本校において、自分のよさや可能性に気付くとともに、互いの存在を認め支え合いながら、キャリア設計や自己実現に向かうことができる能力の育成、及び本校の特徴を踏まえた個に応じた指導・支援体制づくり 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身に付けさせる教育の推進
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが帰属意識をもち、生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に軸足を置いた、豊かな人間性を育てる教育の推進
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校としての魅力があふれ、地域に開かれた信頼される学校づくり

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修のさらなる充実などにより、生徒の能力を伸長できる知識と技能をすべての教職員が獲得することを通じて、工業高校としての魅力づくりを推進 	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート 授業評価アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を自分たちで企画・実施することで、本校にとって必要な教員研修を充実 授業公開週間、県教委訪問に伴う研究授業・授業研究会、生徒による授業評価を実施 保護者が授業を参観できるよう、学校公開日を2日間設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修主事を中心に、キャリアステージに応じた様々なテーマで、教員研修を実施できた。教員同士が学び合う風土が醸成されつつある。 学校の取組に対する、保護者の理解が深まった。 ▲ 多様な学力層の生徒に対応できるよう、授業展開や教材を検討する必要がある。 ▲ 学校の取組を、保護者や地域の方がより豊かに理解できるよう、情報発信のあり方をさらに検討する必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 不断の授業改善によるわかる授業、生徒個々に応じた個別最適な学びを通じて、社会で生きる確かな学力を育成 	8	施策Ⅱ-8					
	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを通じて、失敗を恐れず探究的に学び続ける姿勢を育成 	4	施策Ⅰ-4					
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の提供や面接相談等による個に応じた進路指導を通じて、キャリア設計や自己表現に関する能力を育成 	13	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート 進路決定状況 	<ul style="list-style-type: none"> 工業部と連携して、インターンシップ、現場・企業見学を実施。各学年に応じたキャリアガイダンスを実施 求人情報を、リアルタイムで生徒・保護者へ発信(校外でも閲覧できるシステムを導入) 進学補習(2・3年生)、進学用模試(3年生)を実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職、進学ともに、ほぼ全ての希望者が進路を決定することができた。 ○ 進学ガイダンスを、タイムリーな時期に開催することができた。 ▲ 売り手市場の加速のためか、勤労観や職業観の育成に課題をもつ者がやや見られ、個別の指導が必要となった。 ▲ 四大進学希望者が増加しており、基礎学力の向上、学習意欲のさらなる高揚などを検討する必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップなど就業に関する体験的な学習の充実を通じて、望ましい勤労観や職業観を育成 	13	施策Ⅱ-13					
	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者に対する進路指導体制の充実を通じて、進学希望者の進路実現をサポート 	8	施策Ⅱ-8					
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係のもと、是々非々を明確にした指導を通じて、自己指導能力を育成 	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート 各種アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通安全、交通マナー向上を目指して、交通安全講話、生徒会・育友会と連携した交通安全指導を実施 いじめ等の未然防止のために、心のアンケートなど各種調査を実施するとともに、学科・HR担任と連携して生徒の状態を細やかに把握・理解 個別の支援が必要な生徒に対する指導について、外部機関と連携するとともに、教員間での共通理解を促進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ等の兆候があった場合に、校内で速やかに情報共有し、早期に対応できた。 ○ 個別の支援が必要な生徒に対する指導体制が、外部機関の援助を得つつ、教育相談係を中心に整えられつつある。 ▲ 授業など学習指導を通じた取組を通じて、いじめ等が起きにくい学校風土づくりが必要である(未然防止を目指す)。 ▲ 交通マナーの向上のため、ルールの理解にとどまらない、実践力の育成が必要である。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止など各種啓発活動の充実を通じて、自他の生命を尊重し、他者と関わる力を育成 	1	施策Ⅰ-1					
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や学校の特徴把握を通じて、組織的な生徒指導による個に応じた支援を充実させるとともに、支援が必要な生徒に対して、外部人材等と連携した支援を充実 	21	施策Ⅳ-21					
その他	<ul style="list-style-type: none"> 県指定事業や地元企業との連携協定に基づく地域資源を活用した実践的・体験的な学びを通じて、DXなど社会の変化に柔軟に対応でき、地域産業界を担う専門的職業人を育成 	10	施策Ⅱ-10	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート 資格取得状況、コンテスト結果等 地域担い手育成協議会における助言(県指定事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに、企業の安全教育研修に参加し、5S活動をさらに充実 連携企業を増やし、実習の授業において「開かれた教育課程」の取組をさらに充実(企業の技術者からの直接指導、教員の指導力向上、地元企業の魅力を知る「ふるさと教育」) 高校見学会、一日入学、出前授業等を行い、工業高校の魅力を発信 全学科の課題研究のテーマをSDGsと関連付け、SDGsを視点にした探究的な学びを展開 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県指定事業を活用し、多様な取組を展開したことが、技能系競技大会入賞者や資格試験合格者の増加につながった。 ○ 「開かれた教育課程」や課題研究等の取組を通じて、実践的、探究的な学びを多様に展開した。 ○ 学科主任会議で丁寧に議論することを通じて、工業科全体の取組の方向性を共通理解した上で、ものづくりに関する様々な教育活動を展開した。 ▲ これからの時代の変化を見据え、工業高校としての魅力づくりについて丁寧に議論し、発信する必要がある(高校入試出願者の増加にもつながる)。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校の学びを活かした社会貢献活動の推進を通じて、SDGsを理解し、グローバルな視点でよりよい地域社会の実現に挑み続ける姿勢を育成 	13	施策Ⅱ-13					
	<ul style="list-style-type: none"> 5S活動の推進による安心・安全な環境整備に加え、資格取得の積極的な推進、課題研究等の取組を通じて、これからの時代を見据えた、ものづくりに関する高度な専門性を育成 	14	施策Ⅱ-14					
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民への授業等の公開、学校運営協議会、新校舎建築に関する議論等を通じて、家庭や地域と連携し、これからの時代を見据えた、工業高校としての魅力あふれる学校づくりを推進 	7	施策Ⅰ-7					
		20	施策Ⅳ-20					

【創立100周年】

- ・ 創立100周年事業を推進力として、地域産業を支える工業高校としての本校の魅力を広く発信する。また、様々な関連事業に生徒が参加することで、各種学校行事の充実・活性化を図る。

【授業改善】

- ・ 不断の授業改善に努めることで、分かる喜び・できる喜びを感じ、個々の生徒に応じた、社会で生きる確かな学力を付ける授業を展開する。

【工業教育】

- ・ SDGs など現代的なテーマに関連付けた、探究的な学びに取り組むとともに、各種検定、コンテスト等への挑戦を通じて、高度な専門性を身に付ける。また、5S活動を引き続き推進し、安心・安全な学習環境の整備に務める。

【キャリア教育】

- ・ 豊かな地域資源を活用し、インターンシップ、現場・企業見学、キャリアガイダンスなどをタイムリーに実施することで、確かな職業観・勤労観、キャリア設計力を育む。

【生徒指導、教育相談】

- ・ 是々非々を明確にした指導や、各種啓発活動を通じて、自他を尊重し、他者と関わる力を育む。また、いじめ未然防止や、個別の支援が必要な生徒への支援等のため、校内での速やかな情報共有、外部機関との連携など、早期に対応できる体制を継続する。

- ・ 課題研究の取組を、探究的な学びとして、また協働的な学びとして高く評価したい。このように工業高校の学びが充実していることを、十分に知らない中学生・保護者が少なくないと思われるため、より一層の情報発信に取り組むとよい。

- ・ 地元（西濃地区）への就職率が高い。これは、地元企業との連携協定に基づく「開かれた教育課程」の成果である。このような、豊富な地域資源を活用した取組を継続するとよい。

- ・ コロナ禍の頃から、欠席日数がやや多い就職希望者が見られるようになった。地域産業を担う人材の育成を担う工業高校として、早期（1年生時）からの意識付けが望まれる。生徒が活躍できる場としての部活動の活性化や、基礎学力の定着など確かな学力育成が、その一助になるのではないかと。

- ・ 不登校傾向のある生徒については、家庭での生活リズムを整えることが有効である。そのためには、家庭・保護者と連携して、支援のための協力関係を築くことが必要である。また、発達障がいのある生徒等に対しては、理解をさらに進め、個別に支援できるよう取り組むとよい。

- ・ 年度末評価は控えめな評価となりがちだが、1年間の具体的取組・方策に対する評価であり、成果が認められた場合は高い評価を付けるべきである。このことは、次年度の学校経営計画の方向性を定めることにつながる。